

難聴特別支援学級等担当者学習会を行いました

みみの助



きこえとことばの支援センターでは、毎年5月と8月に県内の聴覚障がい児に関わる方を対象に、難聴特別支援学級等担当者学習会を開催しています。2回の学習会は、難聴児を担当されている先生方が日頃の支援や指導の悩みを共有し、皆で解決していく方向を探る場となっています。

第1回は5月27日（水）に行いました。内容は、授業参観や校内の見学、当校職員による聴覚障がいについての講話、交流会です。幼稚部から高等部までの授業や活動の様子、そして教室環境、掲示物、寄宿舍等を見ていただき、交流会にて質問を受けました。18名の参加者から以下のような感想をいただきました。

授業参観・校内見学について

- ・校内全体を見れたことで聾学校での生活をイメージすることができた。
- ・落ち着いた環境で児童生徒がリラックスして集中している姿が見られた。
- ・絵本の読み聞かせは、一人の先生が読み、もう一人の先生が手話やイラストで分かりやすく伝えていてとても参考になった。
- ・幼児でも漢字が多く使われていた。
- ・生徒も先生も一生懸命学習に取り組んでいる姿に感動した。
- ・教室の環境構成が児童生徒にとって分かりやすく、ことばの獲得の意欲が高まる工夫がされていてとても参考になった。

講話・交流会について

- ・人工内耳について具体的にしくみやきこえ方を知ることができたので、支援の仕方を考える幅が広がった。
- ・きこえにくさを感じている幼児の気持ちをイメージ、理解して保育をしていきたい。
- ・その子の困り感を理解し、関わり方に配慮していきたいことを再確認した。
- ・質問への回答や他校の実践など、いろいろな視点からのお話を聞くことができ、とても勉強になった。
- ・保護者との連携の大切さを実感した。
- ・困っていること、悩んでいることなどが共有できて嬉しい。
- ・本人とよく話し合って授業の在り方を考えていこうと思う。



第2回は8月21日(金)に行いました。ソノヴァ・ジャパン株式会社 マーケティング部 オーディオロジー マネージャー 鈴木 宏明 氏より「きこえにくさを理解し、学びを支えるために」というテーマで講話をいただき、その後、交流会を行いました。今回は、対面参加とオンライン配信のハイブリット型で実施し、33名の参加者から以下のような感想をいただきました。

講話について

- ・ロジャーの使い方や具体的な悩みについて聞いてもらうことができ、安心感が増えた。
- ・機器の種類や使い方、難しい点等、詳しく学べた。
- ・具体的な数字等のデータを示してもらい、分かりやすく理解が深まった。また、ロジャーのありなして聞こえ方が違うことに驚いた。
- ・とても参考になった。講師の先生のお話がとても分かりやすく、1時間半楽しく学ばせていただけた。
- ・漠然としか知らなかった補聴器、人工内耳、ロジャーについて理解でき、大変貴重な時間となった。



交流会について

- ・交流会で意見交換ができてとてもよかった。
- ・障がい認識をどのようにしていくのかを考えることはやはり大切だと思った。また、日常の困り感は忘れてしまいがちだが、子供の声を書きとめながら指導内容を考えたい。
- ・初めて参加したが、参加人数も程よくて居心地のよい研修であった。自分ひとりだけでは、学びも偏りがちになるので非常によかった。
- ・聾学校の様子を聞く機会がなかなかないので、貴重な機会であった。
- ・悩みを共有し、支援の方法等も具体的に教えていただけてとてもありがたかった。
- ・普段は聞くことのできない貴重な意見を聞けてとてもよい機会になった。
- ・保護者とも協力しながら園が安心して過ごせる場所になるよう、早速支援の方法を検討したいと思う。

